

産地パワーアップ事業の取組事例

(北海道)

取組の概要

取組の概要 : 収穫作業の受委託による省力化、作付面積拡大及び品種転換による販売額の増加
計画作成主体 : 初山別村地域農業再生協議会
対象品目 : 水稻(もち米)(産地面積:83ha)
主な取組主体 : コントラクター萌
成果目標 : 販売額の10%以上の増加(10a当たり)
助成金の活用 : 生産支援事業(コンバイン)状況

ポイント

収穫機のリース導入により、現在各生産者で行っている収穫作業をコントラクター萌に集約化し、地区生産者の労働力削減を図る。また、これに併せて、もち米の多収品種の導入及び特別栽培の取組を行うことにより、販売額の増加を実現させ、収益向上を図る。

地区の概要



産地の現状と目標

現状:H27年度

「きたふくもち(多収)」作付面積:0ha
収穫作業受託面積:0ha
販売額:74,903円/10a

目標:H31年度

「きたふくもち(多収)」作付面積:12.67ha
収穫作業受託面積:83.0ha
販売額:85,505円/10a



推進体制

地域の関係者(初山別村、オロロン農協等)が一体となり、事業を推進。

地域における独自の取組

主な取組

村、JAが連携して初山別村産米の品質向上による認知度向上や安定供給等の活動を展開。

道・市町村単独事業

担い手への農地の利用集積の推進、低コスト化、環境への配慮を意識した取組みなどについて総合的に支援。

事業効果

水稻(もち米)収穫作業の受委託体制の整備により、収穫作業の省力化と作付面積を拡大。
多収品種への転換による収量増及び特別栽培による高付加価値化の取組み等により、販売額の増加を実現。

~もち米の販売額~

